

# 能登島地域づくり協議会 組織と取組の概要

---

令和6年10月29日 フォーラム資料



## 能登島の概要

• 石川県 **七尾湾に浮かぶ島**

• **橋がふたつ**

• 能登島大橋、ツインブリッジ  
(現在は通行不可)

• 面積 46.78 km<sup>2</sup>

• 周囲長 71.9 km

• 産業 農漁業・観光

• 人口 2,309名

• 高齢化率 46%

• 世帯数 969戸

• 集 落 20町会

• 2024年8月末現在

# 能登島の風景



# 能登半島地震の被害

- 発災時は島につながる2本の橋が通行不能、地域内3か所の避難所に約720名が避難
- 翌日能登島大橋は片側通行で復旧
- 能登島の東部4集落と西部1集落が特に甚大な被害で家屋倒壊多数
- 広域農道は現在も陥没崩落したまま手つかず



# 避難所の様子

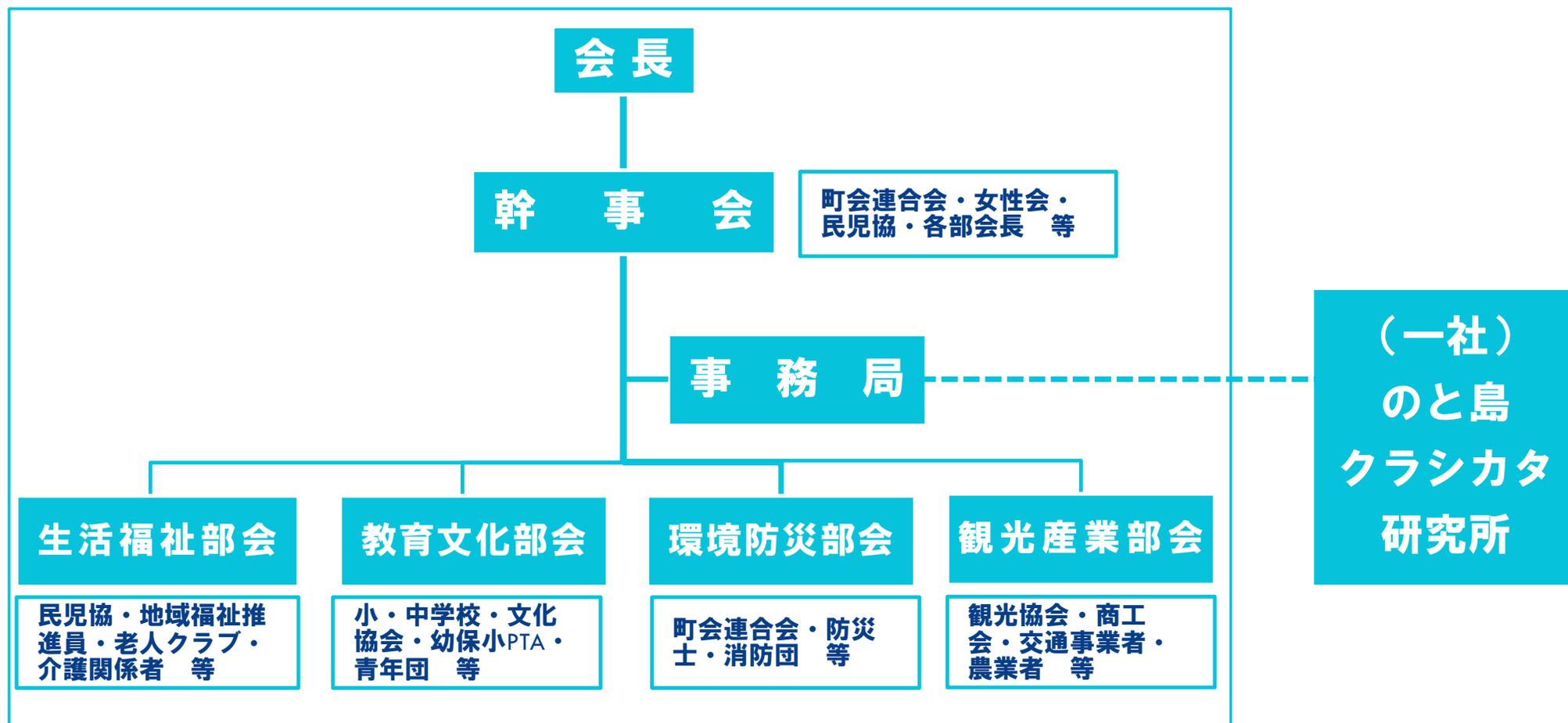


- 拠点施設である地区コミュニティセンターも避難所に
- 1月末で閉鎖、地域内の別施設に集約し、協議会はなるべく次の動きを進める体制に移行
- 3月末で全地区に県水が通水
- 普段からの顔の見える関係性が助け合いの基礎に

## 能登島地域づくり協議会とは

- 七尾市内15地区にある地域づくり協議会（地域運営組織）の1つ
- 活動範囲：旧公民館区＝小学校区
- 組織：委員・幹事＋5部会（生活福祉・教育文化・環境防災・観光産業・事業部）
- 事務局：事務局長＋事務局6名
- 資金：七尾市交付金・補助金、地区協力金、受託事業収益

# 能登島地域づくり協議会 組織図



# 地域づくり協議会の役割

- **地域の課題解決に向けて、住民が協力連携して取り組む**
- **地域の防災や防犯、福祉の向上を図るため、自助と共助によるまちづくりを行う**
- **具体的な事業**
  - 地域の防災防犯に関する事業
  - 地域の福祉に関する事業
  - 社会教育及び生涯学習に関する事業
  - 地域の課題を解決するための事業
  - 地域の特性を生かした活性化につながる事業
  - その他目的達成のために必要な事業

(七尾市HPより)

# 事業内容

## 公益事業（地域の一体感醸成、インフラ的事業）

- 地域イベント運営：ふれあいまつり、復興応援まあそい市
- 各部会事業（福祉・防災・教育・生涯学習など）

## 収益事業（地域内の経済循環・自主財源確保）

- コミュニティビジネス事業（一社）のと島クラシカタ研究所
- コミュニティセンター指定管理

# 収益事業

---

コミュニティビジネス：地域での経済循環と自己資金の確保

## コミュニティビジネスとは

- 「**市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決する事業**」の総称
- **地域の文化、歴史、風土**などを含め、**市民の暮らしに合ったまちづくり**を検討・推進し、**市民が主体となって特徴のある地域社会の創造**を目指すもの

## コミュニティビジネスのねらい

- **補助金依存からの脱却**
- **自由度の高い運営**
- **地域での経済効果（地域への収益還元）**
- **人件費の確保（生業の創出）**

## 能登島の強み

- 豊富な**観光資源**（水族館、道の駅、温泉、キャンプ場、ゴルフ場、海水浴場、民宿）
- 世界農業遺産「能登の里山里海」の豊かな**自然と暮らし**

でも・・・従来の観光客は主要な観光施設訪問がメイン

⇒島の**自然や暮らしをもっと知って、体験して欲しい！**

# コミュニティビジネス事業



# 一般社団法人のと島クラシカタ研究所設立

- 旅行業などの収益事業を行う際に協議会が責任者だと、何かあった時に会長個人や地域全体に影響がおよぶ
- ⇒ 責任範囲の区分けが必要＝法人化
- 一般社団法人のと島クラシカタ研究所設立（2019.6）
- 地域限定旅行業登録（2020）
- 商品開発と販売 道の駅のとじまと協力し売り場を開設

# 「能登島まあそい」ブランド



- まあそい＝豊かな、良く  
稔った、大きな
- 能登島のまあそい風景、食  
文化、生活文化を再確認し、  
未来へ伝えていきたいとい  
う思いを形に
- シンボルカラーは稲の実り  
を表す「黄金色」

## 協議会収益事業部門の開始

- コミュニティセンターの指定管理者として七尾市より受託
- 生活福祉コーディネーター事業受託
- のと島クラシカタ研究所から事務委託を受ける形に
- その他収益と判断されるものはこの部門で管理、税務申告などを実施

# RMO事業

---

令和4年度開始：地域づくりを地域経営事業へと

## **RM〇事業 取り組み内容①**

**・農用地保全：水田耕作の継続・改善・事業展開について**

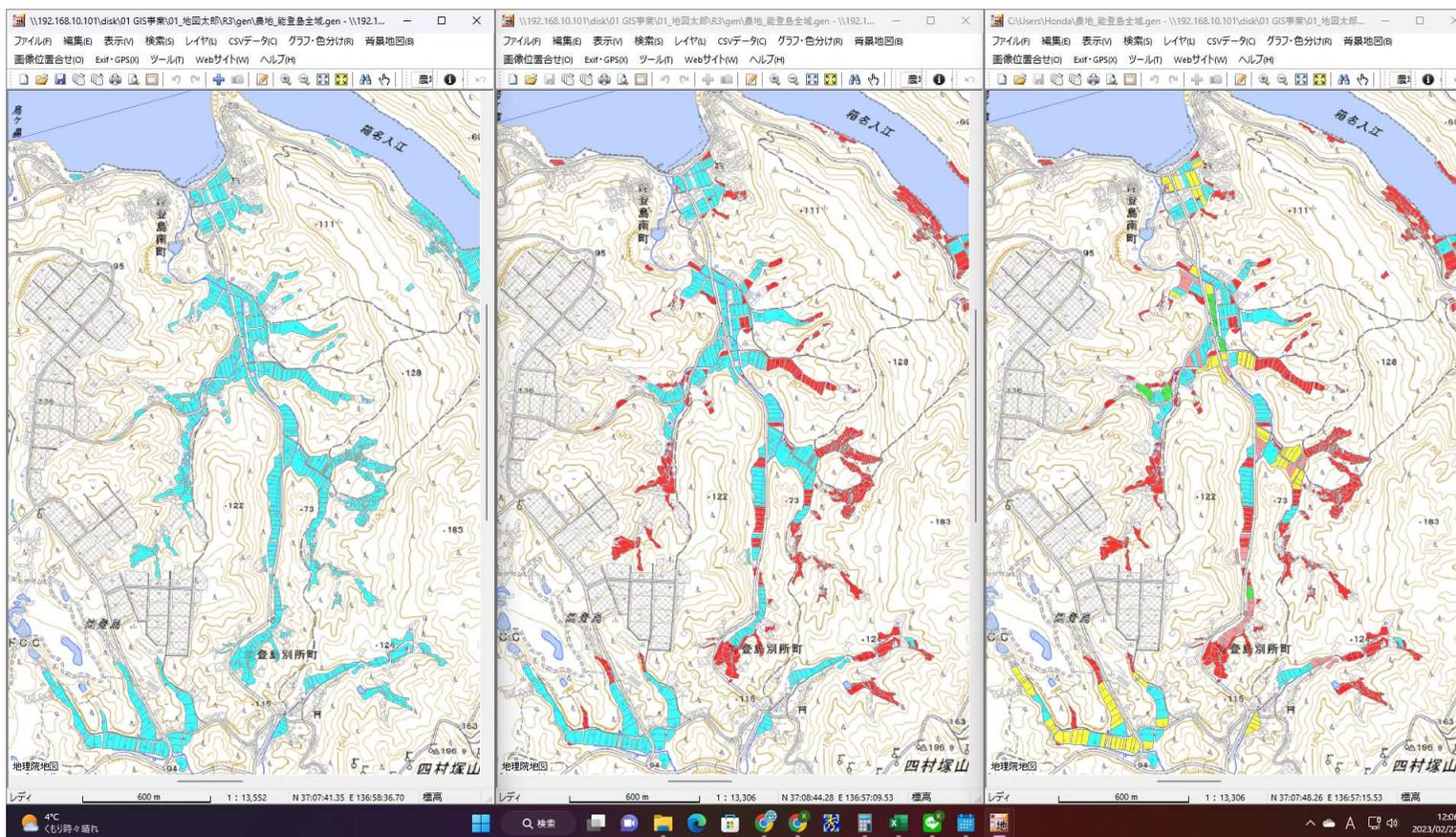
**農地の殆どがごく少数の耕作者に集積されている現状**

**→耕作者の高齢化により、**

**一気に耕作放棄地が増える危機に**

**農家への聞き取り調査を見える化・今後の営農計画策定へ**

# RMO事業 取り組み内容①



## RMO事業 取り組み内容②

- 地域資源活用：水産資源を活用した体験プログラムなどの実施（フリーペーパーとの協力による広報）



## RMO事業 取り組み内容②

米の耕作を一元化するなどの対策は、必須だがすぐに取り掛かれないことが判明  
では、米の高付加価値化や  
直接販売による利益増大は  
見込めないか？



## **RM〇事業 取り組み内容②**

- **米を活用した商品開発と広告宣伝**

**米粉・米粉麺の開発：**

**グルテンフリー・低GI食品としての米の価値**

**レシピ開発（試食販売の実施による販促）**

**積極的な広報活動の実施：**

**都市部でのイベント参加・開催（無印良品有明店・近江町など）**

**ECサイトでの販売強化・卸売りの開始（大口出荷）**

## **RMO事業 取り組み内容③**

- 生活支援：路線バスの在り方検討（デマンドコミュニティバスへの移行に向けた実証実験）**

**地域の足（路線バス）を担う能登島交通**

**住民出資でできた会社だが、負担は事業者だけが負う現状**

**→地域全体の問題として捉え、善後策がないか検討中**

# RMO事業 取り組み内容③

・R6年度は路線バスを一部停止して実証実験中、利用状況や運行状況の確認へ&予約システムの導入



- ご利用の注意** ご利用にあたりまして下記についてご理解、ご協力をお願いいたします。
- 予約変更（時間変更・キャンセルなど）は、速やかに連絡ください。
  - 予約変更、キャンセルは 能登島交通 ☎ 0767-85-2130
  - 利用予約は運行に空きがあれば直前まで可能です。
  - ご予約時に乗車場所にいらしやらない場合、ご連絡させていただきます。
  - 予約時にお伝えする到着予定時刻はあくまで目安となり、道路交通事情等で遅れが発生する可能性がありますのでお知らせください。
  - あいのり交通は乗数の人との乗り合わせ利用ですので、到着時刻は運行の都合、異なります。希望時間に沿えない場合や、目的地へ直向かわらず巡回な走行となる場合がございます。
  - 車両を待たせて用事を済ませることや、乗車してから目的地を変更することはできません。
  - 未就学児のみの利用はできません。
  - 定期券、回数券（300円）もご利用が可能です。
  - 高額紙幣でのお支払いは対応しかねる場合がございます。お釣りのないようご協力お願いいたします。
  - 1名あたりの未乗車予約は6回までとなります。（乗車済みは除く）
  - 1人での乗車が困難な方は、介助する方の同伴が必要です。
  - ペット（ゲージに入っていない）とのお乗車や大きな荷物（スーツケース2個以上など）を持参してのご利用はできません。また、車内において飲食・喫煙はできません。
  - 荷りの便も必ず事前の電話予約が必要です。（運転手は予約を受けていません）
  - 本車両の運行は能登島交通株式会社に委託して運行致します。
  - 予約時にお伺いする個人情報（お名前・連絡先・住所）は本車両運行にのみ利用致します。予約連絡を頂いた段階で個人情報取り扱い事項に同意したものとみなさせていただきます。

実証運行 企画：能登島交通（能登島地域デマンド交通プロジェクト）

バス停より近い場所で  
乗り降りできる  
**あいのり交通**

予約制  
運賃  
300円  
支払方法  
現金またはPayPay  
※写真はイメージです

運行期間 2024年 9月10日～2025年 1月10日  
(日曜日、年末年始を除く)

運行時間 8:30～14:45  
(乗車最終時間)

予約開始 9/3～

**対象者** 路線バス南線沿線をご利用の方

**先行** 能登島南線沿線エリア  
能登島中心部6か所（健康センター、市民センター、島の湯、ファミリーマート、能登島郵便局、能登島小学校）  
和倉エリア どんたく和倉店・和倉温泉駅・さほらクリニック・浜岡整形外科など

※和倉温泉駅まで運行のため、七尾駅周辺へは和倉温泉駅にて路線バスへの乗り換えをお願い致します。  
※あいのり交通運行日、運行時間帯について南線は運休します。詳しくはHPをご覧ください。

## RMO事業 実施における利点

- コロナ禍や能登半島地震など、予期せぬ事態に見舞われたが、本事業の採択があったことで地域の動きを止めずに継続的に取り組むための下支えとなった
- 三分野での取組を設定していたことで、地域をより包括的かつ重点的にとらえることができ、事業が重層的になった
- 地域経営という視点の重要性が地域内にも浸透し、今後の方向性を決定する素地ができた

## RMO事業 実施における反省点

- **農用地保全**：生産者への調査やヒアリングを重ねたものの、生産体制の刷新や向上には直接的にはあまり結び付けられず、課題が積み残された
- **地域資源活用**：コロナ禍からの回復に向けて体験プログラムを継続実施したものの自走できるまでには至らず、その前に震災が起こってしまったことで更なる模索が必須となった
- **生活支援**：デマンド交通の本格導入については、七尾市との今後の協議によって決定されるため、実証実験の効果が活かされるかどうかは未定  
⇒多くのことが途上のまま、今後の継続的な取組が必須

## **RMO事業 今後の展望**

- ・地域商社機能を含む地域マネジメント会社の設立へ**

**地域内の小規模事業者や生産者を束ねる窓口機能が求められており、その役割を担う新組織の立ち上げに向けた動きを開始**

**⇒震災によって、じわじわと衰退した先にあった10年後の未来が一気にやってきた、待ったなしの状態**

**今こそこれまで積み上げてきたものを形にするラストチャンス！**

**本会への支援金・募金を元手に来年度開始予定で準備中**